

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願ひ

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	脳梁離断術前後の眼球運動変化の検討
研究責任者	代表;藤本礼尚 分担研究者;小児神経科 榎日出夫;国立障害者リハビリテーション病院 河島則天;聖隷クリストファー大学 柴本勇
研究実施体制	脳梁離断術の効果が眼球運動の変化で予測できる可能性を検討する。手術は聖隷浜松病院藤本、眼球運動として eye tracking は国立障害者リハビリテーション病院河島、評価を聖隷クリストファー大学柴本で担当する。
研究期間	IRB 承認日～2022 年 3 月
対象者	難治てんかんで脳梁離断術を行う症例の手術前後での眼球運動を計測できた症例
研究の意義・目的	脳梁離断術の効果が眼球運動の変化で予測できる可能性があり、今後の評価方法になる可能性がある。
研究の方法	<p>【方法】てんかん緩和手術として脳梁離断術がある。てんかん発作抑止効果以外に高次脳機能改善が見込まれるが、多くがWAIS計測によるIQ検査では術前後の点数には繁栄されない。しかしながら微細な眼球運動が高次脳機能の改善を繁栄している可能性があり、脳梁離断術前後のeye tracking法で眼球運動を後方視的に計測し比較検討する。尚、眼球運動計測の為に脳梁離断を行う訳ではなく本研究は後方視的研究であり介入研究には相当しない。眼球運動は既に施行した術前後の脳波のFp1/Fp2が網膜電位を拾っておりこれを解析する。</p> <p>【選択基準】難治てんかんが目的で脳梁離断術を行う症例の手術前後での眼球運動を計測できた症例</p> <p>【除外基準】眼球運動計測に協力が得られない患者</p> <p>【予定症例数】20 症例</p> <p>【症例数の設定根拠】IRB 承認後からから 2022 年 3 月に至る症例中上記条件に合うもの</p>
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、匿名化を行うため外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	<p>聖隷浜松病院 てんかんセンター (氏名) 藤本礼尚</p> <p>TEL:053-474-2222(代表) てんかんセンター外来 9:00～17:00 平日</p>